

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791900014		
法人名	社会福祉法人 麗峰会		
事業所名	グループホームいえしま		
所在地	沖縄県国頭郡伊江村字東江前2337-2		
自己評価作成日	平成25年10月2日	評価結果市町村受理日	平成25年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JiyosyoCd=4791900014-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	平成25年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・認知症によって、自立した生活が困難になった利用者に対し、家庭的な環境のもとで、食事、入浴、排泄等の日常生活の世話および心身の機能訓練を行う事により、安心と尊厳のある生活を、利用者がその有する能力に応じ、可能な限り営む事ができるよう支援している。
 ・それぞれが思い思いに過ごせるよう、出来る限り本人の希望に沿い、支援を行うように努めている。
 ・週1回の外出支援により、地域へ買い物や住民との交流のもと、住み慣れた環境での生活を継続できるようにすることを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所2年目でグループホームとしては島内唯一の事業所であり、同敷地内には母体法人の介護老人福祉施設が地域の高齢者福祉の基幹として25年程前に開設されている。利用者全員が島内出身であり、地域柄行政職員や地域住民とは周知の関係にあり、地域住民から日常的に行事や事業所運営に協力が得やすい環境にある。昨年は、職員の合議で事業所独自の運営目標として「いつまでも地域と共に。えがおあふれる空間で。しまでの生活を大切に。まごころ、誠意、愛をもってサポートします」を掲げ、職員は日々のケアに努めるようにしている。また、昨年度の外部評価での4項目の課題も、職員全員で取り組み、目標達成している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成25年12月11日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・法人の理念を念頭に、グループホームの運営目標を掲げ、それを満たせるよう達成できるよう日々業務に努めている。 ・会議にて、理念や目標について再確認し、職員一人ひとりが心掛けるよう努めている。	法人の理念を基に、昨年職員との話し合いで、事業所独自の運営目標として、地域密着型事業所としての意義を踏まえた4項目を掲げ作成した。職員は会議等で確認し、共有に心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・ご家族や知人友人が、気軽に訪問され、日常的な付き合いが持っている。 ・週1回外出支援を行っており、地域へ出向き、買い物や住民との交流を図っている。	利用者は全員が島内出身で地縁が深く、地域住民や知人等が日頃から訪れ、野菜等の差し入れが頻繁にあり、区長からは地域行事の案内がある。事業所行事の夕涼み会等には地域住民を招待する等、日常的に地域とのつきあいがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・村ケアマネ連絡会と共催し、外部より講師を招き、「認知症高齢者のこころ」というテーマで、村民・専門職への講演会を開催した。（H25/3/27開催）	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議にて話し合われた意見等を参考に、実際に施行、再検討を行い、サービスに活かせるよう努めている。	会議は年6回開催されているが、行政や家族、地域代表の区長の出席が各々3回となっている。外部評価の報告もなされているが、毎回の議題は事業所の状況報告が主となっている。なお、議事録は家族や委員に送付し公表している。	運営推進会議の意義を踏まえ、各委員が出席しやすい工夫を望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議や電話等で相談・連絡・報告を行っている。	役場へは、更新申請事務、防災計画報告、利用者の乗船カード作成等で管理者が出向き、調整等を行っている。住民対象の研修会を村ケアマネ連絡会との共催で開催した時にも、行政に出向き協力を求める等しており、日頃から連携を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・法人内で、身体拘束・虐待防止委員会が設置されており、定期的に会議を開き、身体拘束防止についての理解等に努めている。 ・玄関等の施錠について、日中は行っていないが、防犯の関係上、夜間は行っている。	身体拘束廃止については、職員が法人の身体拘束・虐待防止委員会に委員として参加し、協議内容を職員へ周知し共有している。転倒防止のため夜間のみ、ペット柵にセンサーや鈴を設置し対応している利用者がある。リスクに対する説明は必要時その都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・法人内で、身体拘束・虐待防止委員会が設置されており、定期的に会議を開き、虐待防止についての理解等に努めている。 ・また、少しでも疑われる事があれば、上司や他職員へ報告・相談するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・全体会議等にて、定期的に議題をあげ、勉強会や話し合う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に重要事項説明書を用い、十分に説明を行い、理解、同意を得ている。 ・解約時には、その後の相談や不安等あれば、いつでも相談して頂くよう声掛けを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・相談窓口を設けている。 ・運営推進会議にて意見や要望を聴き、運営に反映できる機会を設けている。 ・アンケート形式の用紙を玄関に設置している。	利用者からは、日頃の会話等で意見を聞いている。家族からは面会時や年2回の家族会等で意見交換の機会があり、家族参加の大掃除は日曜日を希望したいとの意見があったが、日頃は意見箱の投書もなく、事業所運営に関する意見も今のところはない。	今後は家族からの意見や要望が言いやすい方法の工夫に努めることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・各会議にて、意見等を話し合う機会を設け、検討し反映させている。 ・また、普段より申し送り等でも話し合える機会を設けている。	月1回の職員会議や法人全体の各種委員会等で職員は意見を述べている。管理者は日頃から意見や提案がし易いようにつとめており、職員の意見で、利用者と一緒にベランダでの野菜づくりの設備や食器の買い換え等が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・勤務等の状況把握に努め、それぞれが楽しく向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・年間計画を立て、各会議にて計画的に勉強会等を行っている。 ・また、その他法人外での研修等への職員受講の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・機会を設ける事はしていないが、離島内の同業者は殆んどが顔なじみであるため、気軽に声を掛け合い、互いのサービス向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前調査を行い、本人やご家族の希望や要望、相談等の聴き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・事前調査等にて聴き取った内容を踏まえ、必要であれば他サービスへの紹介も含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家庭的な雰囲気築き、家事を一緒に行うなど、ケア等も含め、共に支え合う関係である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人の状況を報告、また思い等を代弁し、家族にも協力を仰ぎ、本人を共に支え合う関係である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・離島内と言う事もあり、家族や知人友人の面会も多く、同法人内の別事業所へ訪問する機会も多く、その事業所を利用されている友人や知人等との交流も行えている。 ・また、週1回外出支援にて、地域へ出向き交流を図っている。	利用者全員が島内出身であり、車で15分程で集落が回れる周知の環境があり、知人、友人等からこれまでの暮らしの情報を得ることが多い。教会へ出かけたり、法事で焼香、旧盆には8名の利用者が自宅へ帰る等馴染みの人や場との継続支援が行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の関係の把握に努め、孤立しないよう一人ひとりが支え合える関係を築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・利用終了後も、相談も含め気になる事があれば、いつでも連絡していただくよう話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の思いを常に受け止め、共に可能な限り実現に向け取り組んでいる。	利用者全員が会話による意志疎通ができ、日頃から話し合いがなされ、日課等は、個別の意向に添い自由に過ごしている。利用開始時は全く会話がなかった利用者を、職員が常に寄り添うケアに心掛けた結果、半年間では自由に話せるようになった事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・事前調査での聴き取りや、その後も疑問等あれば、本人や家族へ聴き取りし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・常日頃からの状態把握に努めるとともに、会議や申し送り等での一人ひとりの処遇等について、様々な視点からの意見を交換し合い、現状を総合的に把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアカンファレンスや、その時々において課題等が発見された場合に、それぞれの意見交換等を行い、本人のより良いケアの確立に努めている。	6ヶ月毎にモニタリングが行われ、状況変化に応じ計画が見直されている。担当者会議には利用者、家族が参加し意見を介護計画に反映している。介護計画に基づいたサービス内容の実施記録については、今後の課題としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・業務日誌や、個別の介護支援経過記録や活動記録などを用い、情報共有と課題発見、見直し等に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その時々に応じ、急な外出支援等、その他サービスについても相談に応じ、柔軟な支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・防災訓練の際には、消防団や地域との連携、協力を図っている。 ・ボランティアや実習生等も必要に応じ受け入れ、要請をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・離島内で、殆どどの利用者が村内診療所の医師がかかりつけ医となっているが、本人や家族の希望を第一に適切な医療が受けられるよう努めている。 ・また、本人の状態において気になる点があれば、都度、家族や医療と連携している。	利用者全員が島内にある診療所で受診している。受診は基本的に家族対応としているが、状況により管理者が同行したり、送迎支援を行っている。受診時の情報は家族から口頭で報告を受けているが、気になる場合は直接医師へ電話して情報交換を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々の状態観察、健康管理を行い、異常や変化がある際は、その都度、看護師へ報告、相談を行い、受診等必要であれば、家族とも連携し行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入退院時の看護サマリーや電話等で連絡、相談等行い情報交換するなど、入院中や退院後のケアについて連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・事例はないが、重度化やターミナルケアに対する指針、マニュアルがあり、定期的に勉強会や会議等で話し合い、方針の理解や共有に努めている。	法人の福祉施設の「重度化、看取りについての方針」があり、事業所としても同じ方針で取り組み、研修等も法人全体で行っている。家族への説明は状態変化のある場合等にその都度行う事としており、利用開始時の説明や意思確認等も特に行われていない。	重度化した場合や終末期に向け、事業所として統一した方針を示し、職員や利用者等関係者に周知して、利用者や家族への支援に取り組まれることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・全体会議等にて、定期的に緊急時の対応や事故発生時の対応、AEDなどの心肺蘇生について等、実践を交え勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を年2回実施している。 ・防災訓練では近隣住人の参加や、地域から消防署、ガス会社、タクシー会社などの協力を得て行っている。 ・災害時の対応マニュアルがあり、定期的に勉強会等も行っている。 	今年度消防署立会いで、夜間想定を含めた避難訓練が2回実施され、地域住民も参加している。また、9月には津波に対する避難訓練も実施している。災害時の備品として、利用者全員分の防災ずきん等が準備され、食糧品等は法人で備蓄されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・理念に基づいた対応を全職員心掛けるよう努めている。 ・また、プライバシーに関する定期的な勉強会、職員指導等も適宜行っている。 	倫理マニュアルや研修会で、プライバシー保護について周知し、カーテンやドアは確実に閉める、利用者には敬語を使用する等の支援に心掛けている。また、利用者の権利擁護の支援として、7名の利用者が期日前投票を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・自己決定に係る勉強会を定期的に行っている。 ・本人の思いや希望が最大限反映できるよう努めている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で、その都度本人の意向を確認し、それに合わせ支援を行っている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・起床時、または入浴や着替えの際、整髪や服装の選択をしていただいている。 ・理容等についても、ボランティアで理容師に訪問して頂き、希望あれば散髪等行っている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・嗜好調査を行っている。また都度、希望・要望があれば、それぞれの嗜好等に沿うよう努めている。 ・利用者一人ひとり、出来る範囲での調理の下準備や後片付けを一緒に行っている。 	主食と昼食の汁ものは事業所で調理し、副食は3食法人からの配食となっている。主食はご飯かパンの希望に対応している。利用者と一緒に育てた野菜を利用して、昼食の汁ものやおやつ作りを行っている。職員も利用者と一緒に同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士により献立が作られている。 ・食事や水分の摂取量、また排泄等のチェックも行い、健康状態の維持に努めている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、個別の能力に応じた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄動作の範囲や排泄パターンを把握し、出来る限り本人が気持ちよく排泄できるよう支援している。	日中は全員、排尿、排便チェック表等を活用してトイレでの排泄支援を行っている。利用開始時寝たきりでおむつ使用の利用者を半年で、リハビリパンツを使用してポータブルでの排泄に改善した事例がある。排泄の失敗時はさり気ない声掛けで、トイレや居室へ誘導し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・個々の状態に応じ、水分摂取を促している。 ・便秘に係る勉強会を行っている。 ・便秘の方へ食材などの工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴の声掛けを行い、本人の希望に沿って支援を行っている。	利用者は基本的に週3回の入浴となっているが希望があれば毎日でも対応している。異性職員の介助の場合は了解を得て対応している。入浴を嫌がる利用者は声掛け等を工夫し対応している。入浴後には好みの飲み物を準備するなど工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・本人の生活習慣、身体状態を把握し、時間帯によって声掛けを行い、休息安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の内容確認、また症状の早期把握に努め、変化や異常の際、または気になる事があれば、看護師や医療機関へ連絡、確認、相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人ひとりの生活歴や残存能力を活かすよう努め、趣味活動や家事等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・随時とはいかないが、職員の数が多い場合等は、希望に合わせて外出を行っている。 ・また、定期的に週1回の外出支援を行っており、それぞれの行きたい場所へ行けるよう努めている。 ・家族への協力も仰いでいる。 	<p>毎日事業所周辺を散歩したり、ベランダに出て外気にふれる利用者もいる。また、週1回は外出支援の日と決めて、利用者はドライブで買い物や花見等へ出かけている。また、個別の外出支援として、家族の協力を得て法事や食事会等へ出かけている。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭の所持は自由としているが、基本管理は行っていない。管理能力のある方のみ所持されている。 ・希望があれば、買い物等で使う分の少額であれば預かり、管理を行っている。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・希望があれば、状況に合わせて、その都度行っている。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ベランダを開放的にし、出入りを自由にして いる。 ・空気清浄器を設置している。 ・テーブルやイス等の配置についても、入居者の意見を取り入れ、その都度模様替えできるように柔軟に対応している。 	<p>玄関には、観葉植物や花が置かれ、利用者の活動の様子の写真が貼られている。食堂兼居間の2カ所の壁際にはソファが設置され、畳間もある。利用者は各々の場所で手工芸や昼寝等ゆっくり過ごせる環境となっている。また空気清浄器を設置し、天窓を開放し空気を入れ替える等し居心地良く過ごせるようにしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングでの座席の配慮や、畳間での作業スペースの確保、ベランダの開放など、それぞれが思い通りに過ごせるよう配慮している。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ希望に合わせて、使い慣れた毛布や枕などを使ったり、居室へ写真を飾ったり、個人のスペースとして居心地良く過ごせるよう配慮している。 ・衣替えなど、家族とも一緒に行っている。 	<p>事業所がベットや洗面台、タンスを設置している。利用者は使い慣れた寝具やクッション、目覚まし時計等馴染みの物を持参している。また、空気清浄器を必要としている利用者には提供し、居心地良く過ごせる居室づくりに努めている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのできる範囲を把握し、無理のないよう行っていたり、混乱や失敗のないよう、声掛けや一緒に行うなど、自立した生活が送れるよう支援している。 		